

連載 四国八十八ヵ所めぐり「歩き遍路の旅」4

日本先史古代研究会 会員 樋口俊介

発心の道場(阿波の国) その4

「1番(霊山寺)～23番(薬王寺)」合計23ヶ寺(徳島県)

発心(ほっしん)とは、四国霊場巡拝を志すこと。はるか彼方に向かって1200Kmあまりの辺路(へち)の旅へ、皆様をご案内いたします。当日に歩くお寺に関する由来とか伝説等の内容を分かる範囲で説明をします。これからが修行のスタートです。必ず最後まで歩き通します。

第7回目=平成20年11月08日(土)眉山の麓、徳島の町を歩く

歩き(ウォーキング)遍路 札所1ヵ所 約22Km

18番(母養山) 恩山寺

所在地=徳島県 小松島市田野町恩山寺谷40

電話=(0885)33-1218

宗派=高野山真言宗
開基=行基
本尊=薬師如来

○行基が厄除けのために薬師如来を本尊として刻み、災厄を除く道場としていた。境内にある地蔵堂には等身大の地蔵像と、小さな地蔵像が数多く並んでいる。大師堂には、大師から自らが刻まれた自像が安置されている。聖武天皇の勅願寺で行基が開山した古刹。

◎薬師如来について 人間の病苦を癒し心の苦悩、厄を取り除くなど12の誓願を表わす如来で四国霊場にはいちばん多くまつられてる。

筆者紀行

17番から歩いて20Kmを6時間20分(途中に4回休憩を含む)で到着する。徳島県では午前中は雨が降ったので歩き遍路には大変でした、雨は夕方も降りました。丘陵を上り、豊かな緑の札所にたどり着く、弘法大師が自ら植えたと言われる見事なびらん樹が、仁王門の少しおくにある。このお寺はもともとは女人禁制で、人々の災厄を除く道場だった。そのため、昔、このお寺で修行をしていた弘法大師のもとへ、大師の母君が訪ねてきたが、女人禁制のため会えなかった。しかし大師は母のために女人解禁の修行をおこない、やがて母君は剃髪してその髪を納められたので、大師は寺号を「母養山」と改めたそうだ。

なんと母親思いのお大師なのだろうと、感激し感動します。今日ほとにかく約20Kmを7時間(昼食、休憩を含む)くらい歩き両足には豆ができ、膝が痛く大変に疲れました。しかしその日その日に目的地へ着くためには、目の前の一步の歩みを進めることだけが、唯一の方法です。そうして辿りつく一日のゴールです。

お遍路の旅は、そんな小さな達成感の積み重ねで、疲れも痛さも吹っ飛び爽やかな気分になります。16時20分に終わり16時30分にバスに乗り岡山へ林原駐車場20時20分着く、なお本日の歩数31003歩

第8回目=平成20年12月06日(土)小松島から山へ向かう

歩き(ウォーキング)遍路 札所1ヵ所 約14Km

19番(橋池山) 立江寺

所在地＝徳島県小松島市立江町若松 13

電話＝(0885)37-1019

宗派＝高野山真言宗
開基＝弘法大師
本尊＝延命地蔵菩薩

○四国霊場には四つの関所寺があり、そのひとつが立江寺。心がけの悪い者は山門から先には進めないどころか、天罰が下るといふ。本尊は安産の地蔵尊として、広く信仰を集めている。「子安の地蔵」や「立江の地蔵さん」と呼ばれ、安産祈願の寺として信仰を集める。境内には多くの桜が植えられ、花見時には花見客でもにぎわうそうです。

◎(延命)地蔵菩薩について 弥勒菩薩が出現するまでの間、生前の因業に寄って、天上から地獄まで六つの世界に分けられる衆生を救済するという。

筆者紀行

18番から歩いて4.8Kmを約1時間10分(途中休憩含む)で到着する。国道55号をそれて山間の県道を歩く、釈迦庵が途中にある。ゆるやかな峠を越えてしばらくするとお京塚を見つける事ができる。これは立江寺と関係の深い塚だ。しばらく歩くと「白鷺橋」という赤い橋があった。この橋も、立江寺の伝説と関係の深い橋なのだ。立江寺はお堂建立の際、どこからか飛んできた白鷺が橋の上に止まり、建立の場所を示したといわれている。なお、関所寺については立江寺の外に、27番(神峰寺)、60番(横峰寺)、66番(雲辺寺)です。さあ20番(鶴林寺)へは13.8Kmで厳しい山道、道中はかつては遍路ころがしと呼ばれる難所に向け歩き出すが、さすがに不安であるが同時に、新たに気持ちを引き締めて楽しく行くぞ！生名まで歩く。

17時10分に終わり17時20分にバスに乗り一路 岡山へ林原駐車場に20時20分到着した。

なお、この日は特に寒く山間部で歩きの途中では、綿雪が舞いました。本日の歩数28,055歩でした。

第9回目＝平成21年01月24日(土)鶴と龍を目指して深山幽山の道を行く

歩き(ウォーキング)遍路 札所2カ所 約15Km

20番(霊鷲山) 鶴林寺

所在地＝徳島県勝浦郡勝浦町生名鷲ヶ尾 14

電話＝(0885)42-3020

宗派＝高野山真言宗
開基＝弘法大師
本尊＝地蔵菩薩

○弘法大師がこの寺をおとずれ修行していると、2羽の鶴が黄金の地蔵菩薩を互いに守っていた。ただちに高さ1m程の地蔵菩薩を刻んで、金の尊像をその胎内に納めて本尊とした。いろいろな場所に鶴の意匠が施されている。深山にたたずむ古刹。難所ゆえに兵火を逃れ、文化財が多く残る。老樹に包まれる山門の仁王像は、運慶作と伝えられる。

◎地蔵菩薩について 前記に説明の通り

筆者紀行

本日は前回に歩き終えた生名から20番(鶴林寺)、21番(太龍寺)をお参りして黒河までの15Kmを歩く予定です。参加者は33名(スタッフ等を含む)バスで林原駐車場を6.25分に出て生名に10.10分に着き、10.20分から歩き出す。地元の人やお遍路さんには「お鶴」「お鶴さん」などと、可愛い名前では呼ばれているお寺だが、可愛いのは名前だけ。四国八十八カ所札所めぐりの3難所寺のひとつで、急な山道を登り、標高570m

の山頂にお寺があるのです。とにかく大変ですが登ってみての爽快感はたまりません。

鶴林寺には「千枚通し」という、水に溶ける紙のお札が1000円で売られている。修行を積んでいる人が1000日間欠かさず、千枚通しの紙を水に溶かして飲むと願いが叶うのだそうです。お寺の方いわく、「修行をしていない普通の人が飲んでも効果がありません」とのこと。鶴林寺でお参りを済ませ次は難所で険しい山道の上りあり下りありの太龍寺に向かう！！ さあ気を引き締めて頑張ります。14時10分に出発する。

21番(舎心山) 太龍寺

所在地＝徳島県阿南市加茂町龍山2

電話＝(0884)62-2021

宗派＝高野山真言宗
開基＝弘法大師
本尊＝虚空菩薩

○垣武天皇の勅願により開かれた寺。若き日の大師が100日間に渡り修行をし、虚空蔵求聞持法を修めたといわれている。「西の高野山」と呼ばれる阿波屈指の名刹で、広大な伽藍のなかには、本堂、大師堂、多宝塔などが立ち並ぶ。求聞持堂では虚空蔵菩薩の真言を一日1万回以上唱える荒行が現在も行われるという。

◎虚空菩薩について

大地と慈悲の地蔵菩薩と並んで信仰があつい。福と地を無限に持ち、空と智慧を象徴する菩薩として信仰される。

筆者紀行

21番札所「太龍寺」への巡拝はさらに厳しい山道が続く。那賀川を渡り、小川に沿ったゆるやかな坂道が続くが、後半は厳しい上り坂だ。標高600mの太龍寺山の山頂にあり、鶴林寺から歩くと6.5Km なのだが非常に険しい山道なので、休み休み行くので時間がかかります。鶴林寺までせっかく山を登ったのに、今度は下がつてまた上らなければいけない。しかし行けどもまったく到着する様子がない。上がっても上がっても石段がある感じで、太龍寺はお遍路さんにとって12番(焼山寺)、20番(鶴林寺)に続く「阿波の三大難所」だというのを実感する。したがって今日は登って下つて山を2つ越えたという事です。そのため足には豆ができ、膝ががくがく大変に疲れました。しかし達成感があり気分が爽やかです、有り難うございました。

17時10分に終わりバスで岡山へ林原駐車場に21時20分に到着。本日の歩数は22937歩でした。



第 10 回目＝平成21年02月14日(土)厳冬の阿南市郊外を歩く

歩き(ウォーキング)遍路 札所1ヵ所 約15Km

22番(白水山) 平等寺

所在地=徳島県阿南市新野町秋山 177

電話=(0884)36-3522

宗派=高野山真言宗 開基=弘法大師 本尊=薬師如来

○修行する弘法大師の前に、五色の霊雲がたなびき、その中に金色の梵字があらわれ薬師如来に姿を変えた。そこで大師が加持水を求め杖で掘ると、乳白色の水が湧き出したことから、山号を「白水山」とつけたとか。

◎薬師如来について

前記に説明の通り

筆者紀行

本日もバスで林原駐車場を6.40分に出発し、途中で津田の松原SAで休憩し、前回歩き終えた太龍寺の近くに行くために、バスで行けないのでロープウェイに乗り下車してそこから歩き始める。前日の雨で濡れていたため太龍寺から平等寺への下りはすべりやすく、力が入り疲れしました。ずっと街中や山の中を歩いてきた徳島の遍路道でしたが、由岐という町に来て初めて海に出会いました。次のステージ高知が近づいています。

アップダウンが激しくてきつい道も多かった徳島ですが、人の温かさに支えられて歩くことが出来ました。阿瀬比を通過し大根峠を登り下って竹藪を通り、どっしりとした仁王門の前に立つと、本堂に続く石段が見える。無事、平等寺に到着。平等寺には井戸があり、今も水が湧き出ている。なんでもこの水は、万病に効く「弘法の霊水」だそうで、さっそく飲んでみる。なんか元気になってきた気がする。納経を済ませて、平等寺をあとにして月夜橋の付近まで歩く。17時10分に終わりバスで岡山へ林原駐車場に21時30分に着く。

あと我が家へ、なお、今日の歩数は29,469歩でした。

第11回目=平成21年03月07日(土)山中の庵から紺碧の海へ向かう

歩き(ウォーキング)遍路 札所1ヵ所 約14Km

23番(医王山) 薬王寺

所在地=徳島県海部郡日和佐町奥河内寺前 285-1

電話=(0864)77-0023

宗派=高野山真言宗 開基=行基 本尊=薬師如来

○文治4年に火災が起きた際、本尊の薬師如来が飛び去って、火災をまぬがれたという。その後、伽藍を再建して新しい薬師如来を安置すると、飛んでいった薬師如来が新しい像の後ろに背中合わせに戻ってきたという伝説がある。日和佐の海を望む山の中腹にある。厄除けに霊験あらたかな寺として有名で、境内には33段の女厄坂、42段の男厄坂がある。一つひとつの石段には厄除け祈願の1円玉が置かれている。

◎薬師如来について

前記に説明の通り

筆者紀行

阿波の国では最後の23番に、バス(参加者36名「先達さん等を含む」)にて岡山林原駐車場を6.45分に出発する。途中で今日も津田松原SAでトイレ休憩をして、前回歩き終えた月夜御水庵まで行き下車して、準備を済ませ10時50分から歩き出す、釘打トンネルを抜け福井ダムで弁当(昼食)を食べる。この近くには番

外の霊場で弥谷観音がある。星越峠を歩き薬王寺へ向かう山の中腹にそびえる印象的な塔が迎えてくれる。

阿波発心の道場最後の札所だ。大きなわらじが奉納された山門をくぐり、階段を上りきったところに、本堂があり、本尊は2体あったが、秘仏ゆえ、見ることは出来ず。残念！！ここは厄除けの寺としても有名。境内には、自分の歳の数だけ打って厄よけ祈願する厄災消除の鐘もあった。この薬王寺で、徳島県23カ所「発心の道場」を巡り終えることになる。17時30分に終わりバスで岡山へ林原駐車場に21時40分に到着。

なお、本日の歩数は31,957歩でした。徳島県23カ所「発心の道場」の歩き総距離は約163Km。
さあ次は、修行の道場(土佐の国)「24番(最御崎寺)～39番(延光寺)合計16ヶ寺(高知県)へ



【参考文献】「四国八十八ヶ所めぐり、お大師さんで行く遍路⑩コース(昭文社)

「ふらりおへんろ旅—空海と仏像に会いに行く！—(KK 西日本出版社)

「四国遍路に行ってきたマッシュ！(KK PHP 研究所)

编者より この連載はまだ続きます。次回から土佐高知県に入ります。お楽しみに！！

★2回目に(次回より掲載)

○修行の道場(土佐の国)「24番(最御崎寺)～39番(延光寺)合計16ヶ寺(高知県)

海を眺め、空を仰ぎ、ひたすら前へ。室戸、足摺の2つの岬を廻り、16札所を巡拝の旅へ
歩き遍路には遙かな道のりの修行の道場だ！！

23番(薬王寺)に参拝したあとは、およそ80Km かなたの室戸岬へと遍路の道をたどることになる。

★3回目に

○菩提の道場(伊予の国)「40番(観自在寺)～65番(三角寺)合計26ヶ寺(愛媛県)

旅も半ばを迎え、菩提の道場 伊予の国へ。札所間の距離が2番目に長い。

第43番明石寺から第44番大宝寺を打ち、第45番岩屋寺を終えると、いで湯の里 道後も近い！！

★4回目に

○涅槃の道場(讃岐の国)「66番(雲辺寺)～88番(大窪寺)合計23ヶ寺(香川県)

遍路ころがしの第66番札所雲辺寺を打てば 大師の誕生の地 善通寺をはじめ、町の中の札所が続く。
讃岐の平野にたたずむ霊場を巡れば、結願も近い。